

武家名目抄稿

儀式部十一路時
十六

| | | | |
|-----|-------|---|----|
| 和書門 | | | |
| 類 | 二五二〇六 | 函 | 四九 |
| 架 | 七 | 冊 | 九 |

| | | |
|------|-------|---|
| 内閣文庫 | | |
| 和書類 | 二五二〇六 | 函 |
| 架 | 七 | 冊 |

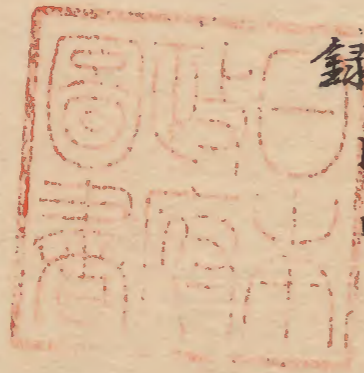
| | |
|------|----------|
| 内閣文庫 | |
| 番號 | 和 25206 |
| 冊數 | 457(273) |
| 函號 | 153 275 |



武家名目抄稿第十六冊

儀式部十一目錄

臨時



賀引手物

孫引出物

小袖引物

素襖引物

刀引物

太刀樽馬



太刀馬

太刀馬代

御太刀進上

太刀折紙

太刀目錄

御札錢

一束一本

卷十帖一本 餘卷十六冊

御對面

御目見

御代始御禮

大日本
大日本
大日本
大日本
大日本
大日本
大日本
大日本
大日本
大日本

武家名目抄稿第十六册

儀式部十一臨時

聲引手物

奥羽永慶軍記云 羽列天童 氏江尾張守義

光^ニ申ケルハ臣情々愚慮ヲメクウスニ

何トソレテ延次ヲ味方トナサスハ天童

ノ城落ル莫ヨモアラン幸コニ姫君御

一所ヲハシマス延次ノ嫡子又五郎七縁

ヲ結ヒ給ハ、能登守其好身ニヨソテ味
方ニ参ル夏モヤ候ヘシ心見ニ使者ヲ以
申ソカハサレレヤト申ケレハ義光大ニ
打諾トモカクモ汝ハカラヒト有ケレハ
則志对九郎兵衛尉ヲ使者トシテ密ニ延
込ニソ云ハセケル中ニ心ナキトノ起請
文ヲ給ラハトモ角モ其義ニ任ヌヘシト
海ソ答ヒケル九郎兵衛尉其旨ヲ義光ニ申

サントテ帰リケル義光此ヨモヲ聞玉ヒ
ソレ安ヒ夏ナリトテ一紙ノ起請文ヲ書
志村ヲ以送ラレケル志村元ヨリ口才名
譽ノ者ナレハ能登守大ニ屈伏シ父子九
郎兵衛ニ伴ヒ山形ニコソ入ニケル義光
ヨロコヒ玉フ夏カキリナク摺引出物ニ
セントテ一文字ト云太刀ヲ又五郎ニ渡
祇シ其席ニテ遠江守光信ト改ラレ

孫引出物

源平盛衰記云

絹笠合
戦條

義澄義盛小坪軍ニ

打勝テ三浦ニ返リ軍ノ次第コマニト

語リケレハ大介義明ヨリニキニコ

ト笑領許入テ無左右ニニ若殿原弓矢

ノ運ハ孫増ニ繁昌セリ中ニモ小次郎カ

振舞神妙ニニトテ感候ヲ流シ孫引出物

トテ大刀一振ヲ給ヒタリケル

小袖引

素襖引

刀引

字五大等身云大酒の時小袖引をけり

刀引が持事也小袖もききりも當座よき

〜の刀もきり〜の法

あ〜

私日記云きり〜事〜

ふし事もいれ、時ハあふとあふし
ハ作但小をり、ハ大略をり、さう
り印うれいさう満まてひくれさう
かりすい事いれ是も入ふさ又さ時
さすさ

人覺紀云系舎の時乱酒は成はくは
ひきのさつ、ひき候兄の盛るさ
さう満まてひくれはてあふさ
さ

られい但素袍よりいれい襟と
いれい事勿論い

押供古實云一小袖又さり門の事り地
内引ひて種さ事定る法依りく
一小袖引の時多ういしうさ
いさ、又ハ、衣扱ハされい、
朋又ハ田樂膝床ささういさ
い事、さうい宛内、さうい

にさきゆくのされゆへに事あり
ゆ也一はゆゆの事なり事そ望まて
務なきゆゆありあり方たよめん
なくゆ但小すゆゆ小まゆゆありゆゆ
す、ゆ、ゆ、ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

あり

太閤紀之 筑紫陣 ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ

元且、出仕あり礼也日事ゆゆゆゆ式掌ゆゆ
治日及て物ゆゆゆゆゆゆ二日一晩にゆゆゆ
初ゆ一四望ゆ大まゆ右よきゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
ゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆゆ
て百葉まゆゆゆ大まゆゆゆ小袖二葉ゆゆ

のちれいそ一重つゝ引かゝりて争をくりし
事其也 畧中三月廿七日薨別之地に到りて
陣し始ぬ。歳高は足越 ありて其の地は風
ありまゝに海上に極ありて地は二三日に
滞留ありて其の期に及ばずして終る事
つゝありて其の地は極ありて海上に
歳高は一と云ふ事ありて其の地は
、其の地は極ありて其の地は極ありて

おれん了りておれん了りて

太刀樽馬

長祿年中法對面日記云 二月朔日 義物 畧
此標 畧 畧 畧 畧 畧 畧 畧 畧 畧 畧
朔日 一 畧 畧 畧 畧 畧 畧 畧 畧 畧 畧
相法 標 畧 畧 畧 畧 畧 畧 畧 畧 畧 畧
義物 標 畧 畧 畧 畧 畧 畧 畧 畧 畧 畧

新撰長祿寛正記云 同四年卯月十六日 赤

松次郎法師カ弟ニ伊勢守貞親ヲ招請申
升ル、音阿弥参リ乱舞仕ル諸人與ニ入
遊宴寂中ニ尾張守方ヨリ嶽山責落ノヨ
シ涯進被申伊勢守大ニ悦則御所へ参リ
其ノ由披露被申公方様ヲハシメ奉リ京
中ノ諸人大慶不可過之是ニヨリテ同月
十七日諸大名御所へ参リ嶽山ノ御敵没
落日出度ノヨシ御祝義被申上各々御大

刀御擗御馬被進献管領細川右京大夫伊
勢伊勢守方一モ同参賀有ト聞ヘシ

太刀馬

吾妻鏡ニ文治三年正月十二日二品并若
公御行始也入御于八田右衛門尉知家南
御門宅千葉小太郎俊御劔知家献御馬御
劔等云々

汲尾宅院成記ニ寛正七年二月廿五日
刻

於版尾肥前守之種宅義政畧傍輩中并進

背圖：當日何作沙右馬進上也

富士亭沙成紀云永正十五年三月十七日

富士式部少輔順光亭右沙城義植略中十一猷系

初秋日作馬右進上也

大報亭興紀云天文十一年五月二日佐方

より沙中今夏能作馬洛越智又八郎右也

刀右子要毛。為作禮多右。その送禮案文

取字右由右則右也

之好能前守義長朝臣亭右作城右紀云永祿

四年三月廿日未作城畧還沙朝日已刻則

道地後州右社依筑州右法右刀右馬進上也

函作右刀右也右沙右禮右等右入

朝倉亭沙城紀云永祿十一年五月十七日

義景亭右義向右之沙城右之次右中右能右辨右以

之禮右禮右刀右一腰右生右内右刀右一腰右也右馬

奉公危きとは大概三百也也仁神より人乃
分限もよきあり

常照愚草云徳人持代よりりあふり持代と
はふ定人の分限よりりあふりあふり、後

ハる也、内馬上一ハる也、あふりあふり、内、てい
ハる也、代もふれ、はあふりぬきの代、此二

る、代、て進とあれも、進代三百也也、是も
古ハる也、その後ハる也、五百也、五百也、減サ

く事也

大鏡常興云天文十一年同三月多ハる也、古ハる也

令ハる也、一也、十市多ハる也、補多ハる也、内入洛

ハる也、礼也、同若平七子の名代上ハる也、中上

ハる也、別、中上、中上、何年也、内對面也

織田信長譜云天正九十二月信長信忠信

雄上洛柴田勝家自越前上洛拜謁信長献

大。刀。馬。代。黄金三百兩云々

関八州古戦録云

朝比奈泰勝豆
州日金越條

大神君ヨ

リ御謝礼トシテ氏直工十種十荷ヲ贈ラ

セラル使者朝比奈弥太郎泰勝相刃工来

リ同月十九日氏直工謁見シテ太刀馬代

等ヲ受納シ同キ廿一日ニ小田原ヲ発足

云々

和籙集要云馬代負数事者馬代ハ上中下

於ニ多目ニ百也リ定法也古法ノ本式也

事不及悪〜〜〜物〜〜〜當代ハ如右ニ記ス

白銀二枚モアリ又二百枚三百枚モ有之也大

馬代ト云時ハ黄金、あト有シ是別金也

枚ノ有也小馬代ト云時ハ銀子多枚也

峰頂家文書云新子老事ハ証権大納言ハ

治敵通示仕合モ外有、友何有ハ証ハ何有

ハ礼ハ一腰馬代銀子五百枚合ニ多シハ

有ハ〜〜〜大納言ハ〜〜〜演説ハ〜〜

得之十月十日廣橋攻之參後

東近基業云崇長五年正月朔日小倉神君
中入之至多し秀頼公は是日大坂小倉より
大身小身各西の丸へ参りつゝ小倉城の規
或は少しかつた。右。馬代あくは統あり
その秀頼公の危從る過二千七百八組を
引分く元日よりあり近神君へ拜礼する

御太刀進上

^{十九}吾妻鏡云兼元三年五月廿八日辛酉西濱
號_之邊騷動是梶原兵衛太郎家茂趙_于
飯島_之邊騷動是梶原兵衛太郎家茂趙_于
小坪浦歸去之處土屋三郎宗遠兼依有宿
意相逢于和賀邊殺害家茂之故也宗遠即
馳參御所付和田兵衛尉常盛進太刀仍被
召預其身於義盛也
無宿親基紀云寛正六年八月十一日石清水
八幡宮放生會十七日上卿以下向此礼也

刀進上也十八日被障大水避氣今進
上也同十月九日得臺椽徑一恒也禮皆被
中之也後從此一不涉右刀進上也二日知
川一家就大内西對治也右刀進上也十一月廿
日取分如川及於室町及涉之後同夜不所
祇儀亮也右刀進上也廿一日也涉右刀進上也
也廿三日午刻若君法天尚誕生法臺則法成在
一武之献還禮諸家法禮同時還涉以後也

次涉右刀及黄昏法對面日禮大納言家同
右刀進上也廿五日若君法湯始涉產所成
大武之献大等大、還涉奉新方大略祇作若
大君候右刀進上也還涉之後常亮也右刀進
上涉對面廿六日今出門夜涉右刀進上也
十二月二日若公涉若衣始涉產所成若
公少く涉右刀進上也三日昨日涉若衣始
涉禮常亮也右刀進上也

又云四月文正十日未着公所色直所官初

時同着君進上右太刀二振元以不換所生中

各進上一還所及東燭者次右刀二振

多上右對面

太刀折紙

太刀目錄

賀越闕諍記云御成次義秋將軍朝倉屋形

上御成中其後朝倉内衆御馬太刀二一御

礼申次第前波魚住櫻井青水詫美山崎此

衆イソレモ十二間ノサイノ内ニテ御礼

申上右也御太刀折紙大館持テ御前一進

上

花宮三代記云應永卅一年二月五日御方

モカサノ御達例

御所様御湯始公家門跡管領以下人々太

刀進上未御對面御方伺公面々以折紙太

刀進上云々

卷川親光日記之寛正六年九月二日丁未
加納修理進士能尾別一宮長陸知行任人守護
石了入不也窪新左事の久總同國、
守任人守護所入新也者右刀金三百也進
上乃紙加納進上分六日辛亥山名及内使
同十一日納也
之女キ同名在國之流若君所誕生内礼事自
國中上之了預内披處之者右刀金千也
新紙去々十日乙卯卷川出雲守親賢為若

君所誕生内礼出仕也右刀系卷千也進上
涉内所也後乃内礼治右刀系卷進上
中及一由雲内右刀系卷進上内武庫一
内内礼中々公方一折紙形系親光惣一
又云文明十年四月十七日己酉一赤松及一
去反治出大進物付方より内射子具是是
直之繩き之被歩寄も及内横又付方より
射子七序及左系系及内序及百也之也内

一大内及乃當年年始以礼京御所移入此右
口。金。万。足。山。云。庫。及。四。枚。唐。紙。以。境。之
去。之。入。く

卷。川。紀。云。右。口。折。紙。を。入。之。後。以。折。奏。者。先
了。事。支。を。中。其。時。ハ。右。の。ま。に。清。う。を。入。へ。存
一。帯。丸。を。一。右。の。方。へ。か。一。事。膝。の。上。に
了。折。又。一。一。て。了。中。支。あ。く。る。右。口。折。石。突
を。押。き。ん。交。す。せ。ぬ。折。紙。を。ハ。左。の。ま。に。折

了。る。写。を。先。へ。か。く。了。折。後。是。時。ハ。右。の
ま。に。折。紙。を。折。り。事。を。奏。す。者。ハ。右。に。了
了。折。紙。一。折。折。紙。を。上。右。口。を。上。右。口。同。乃
不。上。折。紙。の。上。に。奏。て。了。後。又。右。口。折。紙。を
了。右。の。ま。に。一。一。と。入。て。了。折。あり

宗。五。大。双。紙。云。右。の。折。紙。の。事。表。向。ま。す。右
馬。右。口。折。紙。ハ。ひ。ろ。あ。り。又。せ。り。さ
是。以。公。方。極。ま。す。も。け。分。の。也。く。了。て。右。折。り

けくをいひしきく
伊勢貞順宛之貴人之人信出し時右口目録
給事毎に此紙に借し入るけくは酒の
たま人の内箱へ封まうしといききく可
返かし

大月岡答云 右左口折紙披寫之事由りて
左口折紙より右口へかきし事由りて
右口折紙を右の方になきまを中入

さそ折紙をそこする事由りてかきく
ねえ人曰左のまに折紙のよま左口折紙
をけくしきく又左口折紙をかきく
令のりくしけきをきく又彼志は對面
しきまを右にそかきくしき系
時今の左口折紙を別人信出す也
南原ら法集云 左口折紙紙出りしき左口
使者乃右口同前也いき左口ハ右口
使者乃右口同前也いき左口ハ右口

了。折。此。折。日。紙。を。さ。み。右。刀。此。紙。を。入。し。
指。紙。高。一。文。字。を。持。て。か。た。り。て。折。紙。を。ひ。
ま。い。これ。ハ。字。取。右。必。り。左。右。の。紙。を。一。
扱。右。刀。を。ハ。入。し。さ。う。指。紙。を。さ。み。紙。を。一。
相。互。交。へ。は。一。札。す。し。一。右。刀。折。紙。紙。を。
右。手。指。紙。を。先。折。紙。紙。右。手。で。取。る。さ。み。
く。右。刀。乃。是。同。紙。を。さ。み。一。さ。み。右。刀。を。
一。右。刀。つ。き。て。一。札。を。取。り。一。右。刀。

折。紙。を。奏。者。す。る。時。ハ。右。刀。折。紙。を。讀。者。く。
讀。前。に。出。右。刀。紙。右。手。に。立。折。紙。を。右。手。で。取。り。
右。刀。は。紙。を。さ。み。と。う。か。ひ。さ。み。右。刀。を。右。
手。で。取。り。折。紙。を。さ。み。と。う。か。ひ。さ。み。右。刀。を。
か。け。右。刀。は。甲。金。紙。を。右。手。で。取。り。右。刀。を。右。
手。で。入。し。と。あ。は。引。よ。せ。て。右。刀。を。入。す。也。
一。右。刀。折。紙。右。手。で。取。り。右。刀。紙。ハ。右。手。
折。紙。を。ハ。右。手。で。取。り。右。刀。紙。を。右。手。で。取。り。

方へ進上り抄巻を共とひる事く此目下
の付く古刀此甲合を、日野のり
重へし一乃乃山也一古刀抄我奏者
海すのる終るも此也更なる
右箇記云 利家亭抄 利家長長一箇二十
一人古刀抄紙を此札中より一は別
法去案きく 晚日抄撰録より還行
されより

宗^{九ウ}悲聞書云 大名の年寄流事 駿楽田樂を
庭よりく此中より此大名の口流抄
抄成進上り時ハ中次後名にて庭より
此抄巻より一を案きて此常此古刀抄
を抄巻より一を案きて此中次後名にて抄巻
乃よりみゆる此抄巻より此抄巻を中
世に也又駿楽田樂ハ中次後名にて
志く此抄巻より一也

に折一―ぬま人の内籠へ出候次第のさ
いりきまゝにて左の乃小尻を巻ふはけえ
とほく何入候うりし内籠をうかひく
扱持て出―うかひ出候くまひて紐のあ
るハコあり―はくまゝ心ゆく折る出―し
扱内籠へ持て行くと折紙をうりしは左の折紙
扱は左の左を巻くまゝ扱多うて折紙
の上は左の折紙もの少く折る扱は巻く
の

、能也扱まききと巻のたああは礼とい
うもいんきんま―くはく―
あ―と巻人を呼――と―を巻く
は巻人出て礼を云―と―扱を扱奏者
左の折紙取てはく――いまた巻巻の礼
巻中―といあはは出て左の巻巻のハコ
巻巻人巻もよひこ巻巻乃扱扱か―は
きり左の巻巻―と―能也扱はハ左の巻巻

持て杖をさし一常のハ其の如く居て右
刀折紙を有るまで扱客人をして礼を云也
右刀折紙の如くは 扱客常の云々といひ
時もけり如くありし 其のハ其の如く
亭主の如く能也 一右刀折紙の調和上中
も此の昔ハ必し此進上と一字さけて
書くるあり今ハ進の字がさうりたる能
大方は書くる折也 是ハ其の如くあり
大

登ま〜方へ如く書〜 此ハ上と書り大
畧〜此進上の通紙あり其ハ少あ
りりるる方ちとさけて書〜 なる
ありハ其の如くを扱客の如くあり書る〜
其の如く書くるは及

進上

御太刀

一腰 國光

御馬

一疋 康毛 菅旧 結

ハ上

名字
名系

一カ〜るやまい〜てる人も人種ハあ〜
又同輩よりハ一派〜るま〜方〜女体云〜

大方此個物云〜

押右口

一腰 語ありハ云〜

馬

一足 如〜ありハ云〜

ハ上

名字
名系

一是ハ務乐田乐等常〜人〜き所ハ分

た〜〜被爰あり〜考所ハ此の〜

左刀

一腰

馬

一足

ハ上

一上中下先々此の〜る〜其内〜ても後

此字ニツ云云ハ〜ハ〜〜て〜ハ名

字友又右名字友ハ〜〜〜名系計ハと

書りも有る去 大方也此上中り此去
を更きハ此れ 子ハ又付く ひと云一
ありここの 在書り少のありさうり
よぬ一

豊記抄云 一右刀抄紙ハ先抄紙を信長後
ハ右刀を信長ハ一抄紙と目録の及文新
勢ハ常ノ馬右刀此ハ目録也一腰の下
須付ハ馬也常ノ系巻丸ハ系と付ハ事ハ

又奥ノ仁神又より 名字 斗文書紙ハ
要脚を云 系万也より 書ハ抄紙ハ 札
遠ハ馬右刀此ハ目録ノ要脚前とありハ
子近万也より 徳ハ是也抄紙と中ハ書
札ハ一ハ多目子也 系ハ万也書加斗ハ
之ハ此ハ抄紙ハ一ハ斗ハ公方棟抄紙
附進物を翌日送り進上ハ 斗文ハ一ハ表
斗徳ハ一ハ要脚を也 書加勿論ハ申樂

舞、目錄紙交うて是の事如何の
折紙ハ多也万也と認の折紙ハ丁為引
合小高檀紙かとい勢、多字交ハ一折
紙とい多也万也と認の在中の紙文と
ハ一竹多くと認の目錄とい馬右刀在
と認の在中の折紙如前中丁指引合の
一右刀折紙を他家を人より此右刀折紙
寺には使節小とい、奏者丁紙中の

又自分ニ可進の、見素の時丁指系又奏
若披露の、後、是の目錄も丁指、丁指時宜
一右刀折紙、多字を人、是の時指系の
折紙如前中右刀折紙、如く不獲至
る、よとい、中次前と次、同く是出の、公方候
よりハ、百二百人、西右刀進、丁指、ハ中次
次、西中交ハ、多の、下、の、下、同前、ハ
奏者中、右、ハ、後、と、扱、ハ、多、奏

正宗

名宗宛下子ハ子及但子被友ノ名字等書

事也在

細川古家記云永禄十一年正月日三好左京

大進及多門城より津田城へ入也 中

信長十リ

今度東出流捨別入く時大勢心勝意く居

名又礼妨く由以け亦中致心取く居

破以寺く居取以礼残お保土坂よりハ

云子取方初く由以

一東一本

十帖一本

常照愚草云杉原を祝云の時ハうん

十帖由十方在くあるまき事云く一東

一帖と中付扇杉原在中也但公候くは

十帖一帖と中事二帖以目録ありとも杉

原十帖と八朔の目録あり潤き也

私刀宛云一東一帖此と記する人此左の

とらふにむきとてきと巻敷紙をといたる如せ
奉りておくりし事次第に可なりとて是れを
お尋へ可しとてその御對面へ事なす所
は此の巻敷をすまひて此の事なす所
いたし可也中とき此の事なす所
なるといへば此の事なす所
面すは此の事なす所
一は此の事なす所

山崎
嵯河親後死云天文八年七月十日戌申
佛陀寺祠嘗所下知此礼一束一巾持多々

御對面
御目見

吾妻鏡云文治元年乙巳九月一日辛巳延
尉公朝為勅使參營中二品對面給被勸盃
酒緯不及再三號退出于時賜砂金十兩馬

置一匹又以藤判官代邦通為御使被送長
綯二十匹紺綯三十端於彼宿所
比企四郎
東御門宅

云

又云建久三年七月廿七日丁酉將軍家令

招請兩勅使於幕府給於寢殿南面御對面

有獻盃加賀守俊隆大和守重弘小山七郎

朝光等後所設前少將參河守相摸守伊豆

守等候其座及退出期各給鞍馬葦毛 鹿毛左衛

門尉祐經朝重等引之兩客降庭上請取之
一拜之後退出云々

鎌倉年中行事云國人御坐ニテ御對面一

揆ハ御縁ニテ御對面富士諏訪十十八白

側ニテ御對面アリ是モ京都之公方様御

對面之御規式也略中公方様ハ管領外様出

仕之時御盃御礼ナシ目礼モ無之御座ニ

疊重ナレトモ管領ニ御對面之時御下アリ

ソテ御對面アリ外様奉公同前
長祿年中御對面ノ記云御對面ノ時御送
ありしに御入敷事多ク伏見及常盤井及
此御給家但大臣ニ御ありありき時ハ御送
あり大臣ニ御ありはてより御送也此外
の云家流ハ多ク右政大臣ニ御ありは
此外よりハあり

御親基記云寛正六年十一月廿三日平刻

若君^尚御誕生^中則御城^中式ニ獻還御禮
家御禮同時還御之後熱次御方及莫
御對面十二月二日去月廿七日於仁御侍
方御會御禮常流大家少御對面寺御方
同君公少御方乃等也大臣御友入御
誕生御禮御對面
由良家御記云相生の御城より新六御貞
誓云國誓云の御女儀御平様御生

秀吉云此は先づ荒と云ふ事あり相生より
五百余りく内梅おされ秀吉云へ内忠信
なまよしの物支ぬ下候へ多摩川の内牛久
ふ子、中よきゆその時此秀吉云此内威
状よりしゆ玉盤云へ右の内約束お違ふ届
不思名方にくなきる此お此終付ゆをい後
内赤お渡秀吉云へ内日見取ゆかゆ
叔井日記云當家御使者十十ノ参候時モ

元就ノ御代ニハ案内モナク直ニ奥ノ殿
ニ通り万端ヲ申入候逗留ノ内ニハ晝夜
トモニ御相伴ニツメ候テ上方ノ事當家
旗下ノ國々マテノ事委細ニ聞カレ密談
トモ候去ホトニ両家ノ人ハ一賦ニテ隔
ハナク候輝元ノ世ニナリテ使者衆参向
ラ致スニモ上段ノ間ニ着坐ルテ礼義ヲ
調ヘテ御目見トテ退出スルケニ候

道照愚草云秀登御對面此事永正十三年

十月十六日未刻五合五條進一日祿貞久

調色以常法形五合御持子荷云ん云云

名も不書い常也於法前は子一り云云

少更云れい云り

天正十三年七月

伊達日記云十二日政宗公福嶋一御出馬

被成青木修理ニ我等使ヲ添福嶋一被奉

御目見工仕候處ニ今度ノ御奉公御大慶

ノ由御意被成御腰物被下候云々

又云於京都妙覺寺ニ御宿ヲ仰付ラレ大

間様一御目見一相滄色々御拜領ニ而早

早罷下大崎葛西ノ一揆退可申由被仰出

ニ付六月末ニ御下着被成云々

玉露叢云慶長十七年四月十九日ニ山門

ノ南光坊天海僧正參府御目見此時武別

仙波ノ住持職仰付ラレ

御代始御礼

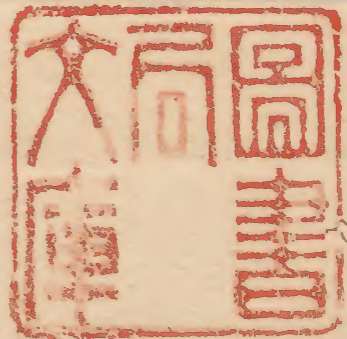
李瓊日録云延德二年度戌正月十六日昧
且剗刀參雲門禪具威儀謁通云御所諸老
皆從愚後愚先謁通云方丈愚所献物古銅
華瓶一對杉原十帖又大御所江進物前黃
唐羅一端杉原十帖置番所就接諸老白、
大館礼部諸老折紙云進千、鹿苑院相因
崇封等持皆如此愚所献折紙進上九瓶、

銅一對杉原十帖以上正月十六日名判蔭
涼軒此五枚渡礼部云鹿苑以下進上者白
寺家進上之愚者為私進上之以故有差異
以御意得可有披露又五紙同前等持院新
位持未移以故欠之渡之云大御所江進上
愚所進礼問愚云此御折紙者每年始儀欽
愚答云不然御代始御礼也云々
卷川親俊宛云承正十八年八月廿七日系

極大系及内代始之、内礼亦了之、以青
既中以由大鼓及、仍始別始之、右力一
腰游内馬代、三百足縁、阿海、進之、同若以、若之
口府及、私宅、東源、同日、山音、以款
以令披露者也、則山右力、不進之、以倭、例彼
於若、以面、渡進之、九月十一日、自典、厩
多、云、留、正、右、東、口、依、及、内、代、始、内、礼、内
内、以、禁、忌、一、条、山、披、露、与、私、主、之、内、始、之

内、進、者、之、為、内、祝、奏、之、由、以、女、中、一、内、中、之、故
以、了、進、以、款、如、行、一、服、節、之、也、之、身
以、若、一、之、進、以、各、中、上、之、礼、山、葉、事、被、節、在
中、以、官、刻、不、存、之、通、一、調、在、上、白、留、正、及
内、代、始、内、礼、内、中、之、令、披、露、以、年、也、以、終
守、存、以、仍、此、方、一、時、在、亦、作、下、以、不、作、以

方、以、下、關、文
足利歷代記云、天文十九年、同五月十一日、細川右京大



夫六角左京大夫伊勢伊勢守イサメ申サ
 レケレハ當御所義輝公比叡辻宝泉寺ニ
 御座ヲウツサレケリ同六月廿八日諸家
 ノ參賀有御代替リ御礼太刀折紙持參ア
 リ此時節朔衆ト御詰衆ト前後相論アリ
 ケレハ難クテ闔取ニ定ラレケリ

武家各目抄稿第十六冊

